

令和7年度第4回宝塚市環境審議会

日時 令和8年3月25日10:00~12:00

場所 宝塚市役所第2庁舎会議室A・B

出席委員 会長、遠藤副会長、今住委員、糸瀬委員、加里委員、阪上委員、明田委員、伊藤委員、川田委員

事務局他 環境部長、環境部次長、環境エネルギー課長、環境エネルギー課係長、環境エネルギー課事務職員

1. 開会

会議の成立 委員10名中9名出席。宝塚市環境審議会規則第4条第2項の規定により本会成立。

会議の公開 本市の審議会等の運営に関する指針に基づき、原則公開することとしているが、傍聴者はなし。

議事録の公表 概要版を公開すること、委員の氏名は記載しないこととする。

資料の確認 事務局より添付資料の説明を行った。

- 議題
- (1) 地球温暖化対策の取組状況について
 - (2) 「宝塚の環境（令和7年度版）」について
 - (3) 第4次宝塚市環境基本計画策定について
 - (4) 第2次生物多様性たからづか戦略策定について
 - (5) その他

2. 議事

議題1 地球温暖化対策の取組状況について

事務局 資料1-1。2023年度の温室効果ガスの排出量の報告を行う。確報値。66万6,000トンということで、前年度に比べて増加した。上段のところに書いてあるが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行することによる事業活動の活発化、産業部門の排出量が増加、あるいは、その家庭部門で外出の増加というところで、エネルギー量の消費は減少したのが、大きなところ。電力の排出係数が大きく増加したため、トータルとしては増加する結果となった。

排出係数は、1ページの下の部分にグラフを示している。関西電力の排出係数は、前年度は0.360だったのが、0.419に増加した。これは制度の改正があり大手電力の排出係数の算定方法が変更となったことが要因である。

2ページ。排出係数の増加を受けて、真ん中の円グラフ、家庭部門の排出割合、排出係数の影響で41%ほどに増えている。

資料1-2。第2次地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の取組状況について、計画に定められている個別の取組について、市の各部局での進捗状況、取組状況を表したものになっている。

1 ページ目。上段、中段のところ、地球温暖化対策など環境保全に関するイベント等についてだが、場づくりを行うということで、令和6年度の実績としては「水辺の生き物探検」、「ホタル観賞の夕べ」など、3,058人参加とあり、様々なイベントを実施して、前年度よりもその参加数が増えている。

1 ページの下の部分。市民ボランティアとの協働による小中学生への温暖化防止学習の実施というところで、引き続きたからっ子エコライフノートを活用したモデル授業を進めている。実施校数と実際の授業を受けた生徒の数も徐々に増加している。特に令和7年度に入って、先生方の御協力があり実施校数が増えている。

3 ページ。幅広い世代が参加できるイベントやセミナーで、「エコ×エネフェス」というイベントを実施、1,300人の参加があり、エネルギーやエコについて学んでいただく子育て世代向けのイベントも実施し、環境に幅広く関心を持ってもらう機会になったのではないかと考えている。

資料1-3。地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の個別の取組の成果指標。5つの柱ごとに、この計画や目標を定めて、その指標の進捗を追ったものになっている。柱1の地球温暖化対策を推進する基盤構築として、環境学習の参加者数を指標として挙げているが、先ほども報告したが、対前年度でかなり参加者数が増え、延べ1万人ほど参加していただいている。エコライフノートについても、着実に件数が増えてきている。

柱2の1人当たりの温室効果ガスの排出量については、3.00トンCO₂となっており、排出係数の増加を受けて1人あたりのCO₂排出量も増加している。下の部分、柱4では再生可能エネルギーの利用の推進ということで、家庭部門の再生可能エネルギー電気自給率を挙げており、家庭で使っている電気のうち、どれだけを太陽光発電などの再生可能エネルギーで実施できているかという指標を表している。市内の太陽光発電の導入量は着実に増えており、2024年度に5.0%という実績になっている。

電気の活用率について、外部からの調達も含めた量で行くと、大体21%ほどの調達ができている。目標はかなり高く設定されているので及ばないが、着実に増えている。資料1の説明は以上。

会長

事務局から、第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に関して取組状況などについて報告があった。

資料1-3、柱2の1人当たりの温室効果ガスの排出量は重要な指標で、このオフィス・店舗等でのCO₂排出量も含めて説明があった。資料1-1、排出係数が増加しており、その影響を受けてこの柱の2つの目標値は対前年度に対して

	悪い方向に増えてしまったというところがある。それ以外の柱1、3、4、5については、2030年度の目標値に届くかは別にして、方向性としてはいい方向で推移していると思われる。 この件に関して御質問や御意見はいかが。
委員	資料1-1の真ん中のグラフの基準年度が1990年度を基準年度にしているが、環境基本計画の17ページのグラフでは、基準年度が2013年になっている。なぜか。
事務局	従前の計画は1990年度というのを基準に置いたが、国の目標も、2013年度比で、国全体で50%削減するなど、基準を2013年度にするものがスタンダードになっているため、今回シフトした。
会長	この地球温暖化対策実行計画では基準年度は90年に置いたままの計画になっているという理解でいいか。
事務局	地球温暖化対策実行計画では1990年度比40%減と示しつつ、国に合わせて2013年度との比較で50%減としている。
会長	この資料1-1の1ページ目のグラフは、その90年だけを示されているということか。
事務局	今までは、環境審議会での報告は、ずっと90年度で行っているのだから、それも残しつつという形で報告した。1990年度比では40%で、2013年度比では50%になるが、そこの説明が抜けていたのでわかりにくかったと思う。
委員	資料1-3の一番上のセミナーの参加者数、取り組むべき方向が上右矢印なのに、30年度の目標が5,000人というのがわからない。
会長	これは目標値を既に超えたということか。
事務局	はい。延べ人数で5,000人と設定しているが、多数参加があり、2023年度の時点で、既に超えている。
委員	この設定は上げないのか。
事務局	計画改定に関わる場所なので上げにくい。
会長	目標値は超えているが、また、来年もこの上向きベクトルで増えているかを確認することになると思うが、かなり増えて努力していると思う。あとの議題で出てくるものでは、実際の保全活動などの参加人数や団体数などが少なくなっている。入り口としてセミナーの参加者を増やすというところはかなり注力していて、実績としても上がっていると思う。
委員	係数の話だが、関電が市場から買っているので増加しているということは、市場から再エネを買っているようなイメージがあるが、なぜこれが上がるのか。
事務局	関西電力がその一部市場に対する販売義務があるそうだ。その発電した電気を同じだけ買い戻してくるという流れの中で、その市場全体の、排出係数をそのまま自社の算定に取り入れられないといけないという形になっている。

委員	要するにCO ₂ 排出の多いものを押し並べるとこうなるということか。
事務局	はい。関電は原子力も割と稼働しており、排出係数低いほうだが、他社から買ってきたもので排出係数が上がっているのではないかと理解している。 今までの考え方が何か変わってきているので、今、他市もどうしているかと様子を見ているところだ。
委員	宝塚市全体で見たら、CO ₂ の民生部門は下がってきているのか。
事務局	排出量としては係数が増えているので増えてしまっているが、実際には下がっていると考えられる。
会長	省エネ化はなされているということか。
事務局	はい。ただ単年度で見ると前年度よりは増えている。
事務局	環境基本計画の18ページ、エネルギー消費の調査をしている、電気需要量に関しては、2023年度は前年度よりもやや下がっているが、ガスについても増加傾向である。電気とガスは、エネルギーをジュール換算しても、2023年度よりやや増加という状況。
委員	資料1-3の表は、何か公表されたりするのか。
事務局	はい。第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）のところで掲げている目標数値であるので、環境審議会で報告の後、ホームページ等で掲載する予定である。
委員	目標の数字があるから、この項目になっていると思うが、今の排出係数の問題によって大きく左右されてしまう。その一方で、私たちの取組としては排出係数にかかわらず、省エネ行動によって電気の使用量を削減していくことが大事だと書いてある。ここに合わせて今の消費量とかも示したほうが実際の動向を示すのに分かりやすいような気がする。
事務局	地球温暖化対策実行計画では、こういう指標にはなっているが環境基本計画は、ジュール換算してエネルギー消費量を指標として上げている。実際に使っている量を下げることが、この換算係数にかかわらず目標とする指標にあげている。
委員	資料1-1も併せて公表されるか。
事務局	はい。この温室効果ガス排出量についても毎年ホームページで上げている。
委員	こちらは実際には消費量も増えている。増加傾向にある。
事務局	たしかに若干増加している。
委員	こちらの文書だと、エネルギー消費量が減少していると書いてある。
委員	1990年という基準年からの話だからそうなってきたのか
事務局	この文章は最も多かった平成24年度と比べて、減少となっているという書き方なので、傾向として減ってはきているが、ここ1、2年で見たら消費量が微増している。
委員	排出係数が上がったが消費量としては下がっており、結果として上がっている

	という話だったが、実は消費量も増えているということが、1-3の資料の背景にはあるということか。
事務局	そうだ。この1、2年、前年度と比較すると、若干増加になる。
委員	その事実が見えにくい。
事務局	排出量が最も多かったときと比べて減ってきているという書きぶりに関して検討する。
会長	資料1-1は地球温暖化対策のホームページで、単独で公表されるのか。指摘のあった部分をブラッシュアップして公表してほしい。
事務局	承知した。
会長	そのほかいかがか。
委員	資料1-3のCO ₂ 排出量が、増えた理由など市民が分かる資料はないか。
事務局	資料1-1の3ページ目に、分析を部門ごとに書いているが、例えば産業部門は新型コロナが5類に移行して、事業活動が活発化したとことも、その要因の一つである。家庭部門においては逆に家での電力消費は下がっているが、排出係数が結構上がっており、その分換算した量としては増えてしまっているところを書いている。
委員	見えないものなので、自分事にしづらい。市民にもできることがあるのではないか。市民のニーズも多いと思うので、具体的に市民ができるようなことの記載があればよい。もう少し楽しく、分かりやすくしてほしい。
委員	温室効果ガスの排出量を減らすというのが主たる目的だが、今現状として、気候変動が起きており、エアコンをどんどん使わなければ仕方がない。学校においても、冷房をつけていると、今後、電気代、ガス代というのは上がっていく傾向にある。文書化すれば、我慢しようとならないか。何かできないだろうか。
事務局	別の事業では、公共施設の古い空調を新しい空調に置き換えることで、省電力で、効果も上がるので、環境省の助成金を活用している。同じように、今年度、市民事業者向けに対しても、お店の空調を更新するときにCO ₂ 排出量が30%以上削減できるというものであれば、その助成金を出すといった事業もしている。暑くなると使う量も増え、そうすると、より温室効果ガスが出て、さらに地球温暖化が進んでしまうジレンマがおこる。ただ、そこを少しでも抑えるような取組も実施している。啓発イベントや、子供向けのエコライフノートの小学校での活用促進など、脱炭素の意識を広げていくということに取り組んでいる。
会長	資料1-3は、この地球温暖化対策実行計画を毎年、この審議会にてチェックすることになっており、この審議会で見るのがメインになる。 資料1-1は、温室効果ガスの排出量という形でこれがどう推移をしているのかということ、広く市民に知らせるといった目的である。これに先ほどの意見を合わせると、どういうことをしたらいいのかというところが分かる部分として、

	この実行計画本体に載っている施策である柱2に関して、市民、事業者、市の具体的な取組が載っている。そこになかなか読み手の目がいかないので、市での取組や市民への取組促進が分かるものを抜粋でつくっていただくと、実行計画を御覧いただく方も増えると思う。こういうことを進めていているという認識を共有できるので、その辺の工夫もいただければありがたい。広報するときに、そこを注力いただきたい。
事務局	承知した。
会長	計画が絵に描いた餅に終わらないようにというのが、皆さん一番関心のあるところなので、情報を常に発信していく必要があると思う。ぜひよろしく願いたい。

議題2 宝塚の環境（令和7年度版）について

事務局	<p>資料2の宝塚の環境。</p> <p>毎年、環境基本条例第11条に基づいて作成している白書になる。今回の令和7年度版は、令和6年度中のデータをまとめたものになる。</p> <p>8ページまでは、特に大きく変更したところはない。8ページから11ページまで全41項目が、現行の第3次環境基本計画の進捗状況の評価をするために設定した指標になっている。</p> <p>前年度から比較して評価が変わった点が4項目。</p> <p>7番の市民1人当たりのごみの排出。19番、20番の河川水辺空間アドプト活動団体数と活動人数。30番の高齢者・障がい者住宅バリアフリー改修費用助成の促進。前年度と比較して変わったところは、以上の4点。</p> <p>今の指標のところは、全体としては○が少し減り、×が増えているので、前年度と比較して、若干悪いという結果になっている。</p> <p>13ページから19ページ、こちら持続可能な発展と生物多様性の保全是大きな変更はなし。データを最新のものに変更した。</p> <p>20ページから23ページ、こちら生物多様性、大きな変更点はなし。</p> <p>20ページの一番下の(3)生物・生態系調査、こちら生物多様性のたからづか戦略のほうでスポット調査は、21ページの頭のところ、最新の令和6年度を分記載した。24ページから25ページ、こちらは環境学習・啓発事業も最新のデータに更新した。</p> <p>27ページは、生物多様性たからづか戦略の進捗状況を把握して評価する指標になる。27ページから29ページまでの項目とは21項目。評価の結果としては前年度と比較して、変わっていない。</p> <p>30ページから65ページ、データを令和6年度の最新のものに更新。こちらの公害対策等は、環境エネルギー課の職員が市民の方からの苦情、通報の対応、各</p>
-----	---

	<p>検査などを行っている。PFASのことについては、47ページに記載している。用語の説明は、巻末に用語の説明としてまとめて載せている。こちらのPFOSやPFOAの説明についても、66ページ以降の用語説明のところで記載している。変更したところはデータを更新している事務局からの説明は以上。</p>
会長	<p>宝塚の環境という白書という視点から見て、市のほうで今、認識している環境上の課題や問題について、令和6年度で、悪くなっている、よくなっているといった評価の概要を報告してほしい。</p>
事務局	<p>8ページから11ページの指標において、前年度より悪くなったものは19番、20番、アドプト活動団体数と活動人数は×という形になっている。こちらは高齢化など影響で活動団体として活動を続けていくのが難しくなっているのではないかと考察をしている。</p> <p>10ページの高齢者・障がい者住宅バリアフリー改修費用助成の促進、こちらも×という形になっているが、担当部署としては、過去が異例的に高かったのではないかと考えている。申請によるもののため、なかなか考察が難しく、全体として傾向がつかみにくい。</p> <p>評価が良かった指標は8ページの7番、ごみの排出量が挙げられる。こちらについては、一定の減量化については達成できているという報告されているが、今後さらに、食品ロス削減の推進も取り組んでいきたいと担当から聞いている。</p>
会長	<p>こちらの後半30ページ以降の環境保全に関する大気とか、水質とか、こちらのほうでは特に問題は生じてないと見ていいか。</p>
事務局	<p>はい。公害の関係で言うと、基本的には問題ない数値であり、基準は守られている。PFASも付け加えたが、PFOS・PFOAは50ナノグラムという国の基準を上回るような地下水や河川もないので、公害に関しては良好を維持していると考えている。</p>
会長	<p>65ページ、公害苦情件数も若干減ったということか。</p>
事務局	<p>はい。年によって違うので一概に言えないが、大体例年どおりである。関心が高くなると、問合せも多くなる。数値的な件数や国の基準で見ると、割と良好と思う。</p>
会長	<p>承知した。</p>
委員	<p>この8ページの、評価のところ○とか、◎とか、達成結果で書いてある。具体的に、例えば○においては達成率などの数値化できそうな評価も記載してはどうか。</p>
事務局	<p>第3次環境基本計画が策定されたときの数値を現状値として、そこよりも良くなっていれば○だが、少し良化しただけでも○、本当は目標にあと少しということでも○ということになるが、それらを同じ○として評価してもいいのか、ということか。</p>
委員	<p>そうである。</p>

事務局	達成率、目標値までのパーセントとか、載せたほうが分かりやすいケースもあるかもしれない。今いただいた意見を参考に、達成率を記載することを検討する。
委員	荒神川についてだが、U字溝河川にしてしまった部分が30メートルか40メートルかあるという話で、ここの課も知らない間にやられてしまうという事象があった。全体の達成率で見たら何パーセントであるから○という表現があって、ただし書きはしてあるけれども、市民が見て、行政がうそをついていると評価されるのではないか。毎年悪化しても○がつき続けるのではないか。評価の方法を変えたほうがいいのではないか。
事務局	荒神川に関しては注記という形で記載しているが、○となっていれば良くなっていると捉えられるので、その割合を出して実情が分かるようにする。
委員	環境のことについて、ある意味取り返しのつかないことをやっちゃっているということ、認識しないといけないと思う。荒神川のあの部分というのは、いわゆる水環境の連続性を完全に遮断してしまっているにもかかわらず○というのはおかしいと思う。
事務局	数字上ではというところに○になる。
委員	評価の件については達成率など、いろんな評価の手法があると思うので研究して、今年度はこれで仕方ないと思うが、来年度以降、検討してほしいと思う。8ページの6番の項目のごみの総排出量はどういう理由で減っているのか。
事務局	分別などの周知を強化していきなりするが、はっきりわからない。減量を推進しているが、高齢化が進んでいくとごみも減っていくことや、燃やすごみ、プラスチックのリサイクルの分別など、そのような要素が絡まって、燃やすごみについては特に減ってきているのではないか。リサイクル率はもともと30%と高い状況だと認識している。
委員	このごみの総排出量の減少というのは10数%ぐらいなので、もっと特筆してもいい数字でないかと思う。その割に1人当たりのごみ排出量は、減ってはいるが、そこまで減ってない。
事務局	人口で割っているのと、ごみ総排出量の中には事業系も入っていることが影響しているのではないか。
委員	トレンドとして消費量が減少して排出量が減っているのか、それとも事業系で何かがあってこの年だけ減ったとか、もう少し分析した形の報告になれば良いと思う。
事務局	ごみの関係は廃棄物の減量の審議会でも取り扱っている。環境部の所管のクリーンセンターにも聞いて宝塚の環境を作成する際に、注意して事前情報入手した上で、説明したいと思う。
委員	河川事業、アドプト活動団体とか、人数がどんどん減ってきているが、高齢化ということで、対策はあるのか。

委員	多分どんどん減ってくると思う。自分のところも高齢化が進んで人数が足りなくなり、なかなか前に進まない。若い人がなかなか入ってこないの、対策やアピールなど、若い人が手伝ってもらえるようなものがあつたらありがたい。
事務局	担当のほうからは、広報誌やホームページなどに掲載し、PRしていきたいとは聞いている。
事務局	アドプト活動だけではなくて、環境保全活動をされている団体も高齢化による人員不足の問題があるかと思う。私たち環境エネルギー課で言えば、そのような団体を取りまとめて環境都市宝塚推進市民会議というようなものを組織して活動させてもらっているが、イベントなどがあつたら、アピールして、何とか団体の人数を増やす、比較的若い方たちにも参加していただくという、そういった啓発を進めていかないといけない。
委員	それが必要であれば、もっと仕組みをつくっていかないといけない。例えば、宝塚の企業の中で、月に1回は活動に参加しなければいけないなど。それができるかどうかは別の問題だが、ボランティアばかりに頼るという時代は終わってしまったと思う。例えばそれをやれば減税するといったシステムがあればどうだろうか。
事務局	現状としてはなかなか厳しいものだ。市民に呼びかけるだけでも弱いと思っている。分野は違うが、脱炭素関係では商工会議所や尼崎信用金庫と連携して経営セミナーを開くなど、会社の方を対象にした取組をしている。 環境保全の分野についても市と協力関係をつくることを考えていかないと、CO ₂ も減らないし、環境もよくなる。市民の方にも呼びかけて一体となってやる仕組みをどうやってつくるかは重要なことだと思う、情報収集したり、他の市の取組を調べたりしている。研究、検討していきたいと思う。
会長	武庫川流域などで、アドプト団体合同でイベントをするなどして、一般の人も参加できるようなきっかけづくりが必要なのではないか。
事務局	イベントに建設業の方が率先して参加してくれたりもする。その分野分野で協力できる。一斉清掃なども事業者呼びかけている。
委員	アドプトのことだが、草が生えると刈らないといけないが、手でできないという問題がある。今、河川のところは木が大きくなって、普通に刈れるような状態じゃない。だから一斉清掃で皆来てやると言ったら、ごみの回収ぐらいしかできない。河川敷を保とうと思うと、管理していくことが必須だと思う。 今、公園のアドプトは結構増えてきている。これはお金が出るから。河川敷の場合は全てボランティアである。道具やガソリンなどの費用もかかり、ボランティアではできないというのが、現状だと思う。
会長	行政間の働きかけも大事だと思う。
委員	心理的に、掃除しようと言ってもネガティブなイメージがある。それを楽しめるような、例えば「ごみ拾いレンジャー」などを作れば、子育て世代や子供が食

	つきやすいと思う。
事務局	子供たちは、ごみ減らそうという意識を持ってくれやすい。子供向けの啓発として、小学校4年生ぐらいを対象にした、地球温暖化防止に関する「たからっ子エコライフノート」という冊子がある。それを学校で活用してもらうことで、子供たちは真剣に授業を受けてくれる。また、「エコ×エネフェス」という70周年記念でイベントをやったときも、子供たちがいろんなことを体験してくれた。子供たちに対する啓発は、今後、私たちも力を入れていけたらと思う。
委員	13ページの温暖化のグラフが、2005年ぐらいまでのデータのものなので、最新のもの、2025年ぐらいまでのものに差し替えられないか。
事務局	承知した。

議題3 第4次宝塚市環境基本計画策定について

事務局	<p>第4次宝塚市環境基本計画について、お手元にお配りしているものが、パブリックコメントに掛けようとする段階のものになる。</p> <p>前回の環境審議会で御意見いただいたところを反映している。</p> <p>47ページ以降で取組事項について検討しますとなっているのが多いという御意見がありましたので、いくつか修正した。50ページ。事業者の取組で再生可能エネルギー設備導入や木質バイオマスの活用の可能性を探索しますと修正した。62ページ。自動車排気ガスの低減との事業者の取組のところ、社用車の購入時や買い替え時は、電気自動車、燃料電池自動車、ハイブリッド自動車など、次世代自動車の導入やリースの活用を図る、と修正した。ここも以前はリースを検討となっていた。64ページ。水環境の保全というところで、水質調査・監視体制を継続し、必要に応じて測定地点や調査項目の拡充等を図る。ここも検討しますとなっていたが、表現を変えた。74ページ。市の取組のE C O講座や環境フォーラムなどの環境学習の場においては、子育て世代を含め多様な世代の市民が参加しやすいテーマを設定し、開催方法を工夫しました。</p> <p>指標でアンケートのところ、2015年度にピンポイントでアンケート取っていたというところがない場合は、一番近い年度のもの載せた。55ページ。環境指標として、市民アンケート「市内の自然環境の保全状況」は、2016年度に実施したアンケート結果載せている。58ページ。「緑化活動への取組」は、2016年度のアンケート結果を載せた。69ページ。「市域全体の景観保全への取組が十分できている、またはできている」も、2016年度のアンケート結果を載せている。73ページ。「環境保全活動への参加状況」は2018年度の30.3%を載せている。</p> <p>35ページ。P F A Sの説明の表現を修正している。</p> <p>63ページ。水質の環境指標の目標が現状値よりも低い数字となっているが、自然由来のものがあるから100%というのが難しいが、現状値よりも上げた数</p>
-----	--

	<p>値98%という数値で目標を上げた。</p> <p>その他、誤字、改行がおかしい、宝塚市の塚という字が点入るなどを修正した。</p> <p>市長のコメント「はじめに」のところは、パブリックコメント後に記載する。</p>
委員	<p>パブリックコメントは、要は市民の皆さんにこの内容でいいですかみたいな感じで、ホームページとかでクリックしたら見られるものか。</p>
事務局	<p>ウェブでも意見提出できる。冊子化して、環境エネルギー課やサービスステーションの窓口において、意見のある方に、その意見のフォーマットと一緒にお渡しする。広報たからづかやホームページでも周知する。</p>
委員	<p>パブリックコメントで概要版はあるのか。</p>
事務局	<p>はい。概要版もつくっているのでは本編とともに見られるようにする。</p>
会長	<p>パブリックコメントで市民の皆さんからの意見をいただいたり、場合によっては、審議会委員の方々からもコメントをいただいても結構だが、いただいた意見を踏まえて最終版という形で、もう一回この審議会にかけるのか。</p>
事務局	<p>はい。パブリックコメントが終わった後で、環境審議会を開いて、最終形について審議いただく。</p>
会長	<p>市民の方に御意見いただく素案としてこれでいいか。</p>
委員	<p>パブコメにかけるのはいいと思うし、できたら早いほうがいいと思う。議事録をあげてほしい。</p>
事務局	<p>はい。至急共有できるようにする。</p>
会長	<p>よろしく願います。概要版をつくり、委員にもメール等で配付した上で、速やかにパブリックコメントを実施する手続きをお願いしたい。</p>
事務局	<p>パブリックコメントの実施時期は手続として4月中に都市経営会議にかけ、議会への説明も4月中に実施し、5月1日から1か月のパブコメ期間を想定している。その後6月後半から7月前半に環境審議会を開き、そこで最終形について審議していただく予定だ。</p>

議題4 第2次生物多様性たからづか戦略策定について

事務局	<p>第2次生物多様性たからづか戦略を、パブリックコメントかける最終段階のものである。前回の審議会でご意見いただいたところを反映している。</p> <p>48ページ。アライグマのワナにかかっている写真を委員から提供のヌートリアの写真に切り替えた。</p> <p>81ページ。この基本施策8の生物多様性に関わる情報の収集で、(2)情報収集・蓄積の仕組みづくりで、レッドデータブックを宝塚市として策定することを取組として書けないかという御意見があったので、宝塚市における希少種に関するレッドデータブックの作成に向けて、情報収集を行うことを追記した。</p> <p>84ページ。市域における保全区域面積割合、30%と掲げているところを説明する必要があるだろうという御意見があった。生物多様性主目的とする保護地</p>
-----	---

	<p>域のことを指し、宝塚市では具体的にはどのようなものが挙げられるかということ、30 by 30に向けて、この面積割合について市域の30%以上を目標として掲げること、自然共生サイトの認定数を増やすことでその面積割合を上げていくこと書いた。</p> <p>同じく84ページ。有害鳥獣の捕獲数を指標とすると増えるのがいいのか減るのがいいのか分かりにくいので、狩猟免許所持者数というのはどうかという御意見があった。農の魅力創造課とも話をし、鳥獣被害防止計画にも掲載している「市内で活動する有害鳥獣捕獲者数」を指標とした。</p> <p>51ページ。まち山の説明の監修、兵庫県立大学の服部先生の現在の肩書を名誉教授に修正した。</p> <p>69、70ページ。冊子化したときには見開きになる。</p> <p>表に色をつけて、ビジュアル的に見やすく修正した。</p> <p>誤字脱字も含めて部内でチェックしながら修正した。</p> <p>今回ご提示した内容でパブリックコメントにかけていきたい。</p>
会長	48ページの特定外来生物対策の写真はアライグマがオリに入っている。
事務局	足がワナにかかった写真を変更した。
会長	こちらはそのままか。
事務局	特定外来生物であるので。
委員	オリがないとかわいい写真になってしまうのではないか。オオキンケイギクもきれいだが。
事務局	痛めつけている写真ではなく、また、アライグマは駆除対象なので、かわいいから餌あげようというのはよくないので、カゴワナにかかった写真を採用した。
委員	オリがあって、見えにくい。
事務局	写真を変更する。
委員	40ページも差し替えを。
事務局	承知した。差し替える。
委員	3ページ。セグロセキレイの写真がハクセキレイではないか。
会長	宝塚市市鳥でもあるので、細心の注意を払って再度確認をお願いします。
事務局	承知した。
会長	これも概要版がついてパブリックコメントにかけるのか。
事務局	はい。環境基本計画と同じように概要版もつけてパブリックコメントにかける。
委員	35ページ、36ページ。環境省にて、つい最近、鳥類、両生類、爬虫類の新たなレッドリストが出た。多少変動があり、バンやキンクロハジロなどにランクがついて、希少種の扱いに指定されている。可能であればそれを反映させるなど、見直してほしい。両生、爬虫に関しては新たに出ていると思う。
事務局	承知した。確認する。

会長	生物多様性たからづか戦略の件については、ここまでとする。 その他で、前回意見のあった176号線の宝塚インター付近の中央分離帯のカイズカイブキの植栽が伐採されてしまっている件について、何か情報は得られたか。
事務局	市道路管理課に確認したところ、あそこは県が担当している場所であり、市には計画の段階や実施の際も特に連絡などはないということだった。どういう理由で伐採したのかについても一切情報の共有はないということだった。
会長	県に問合せを確認してほしい。
委員	結構な面積があったと思うが、市の緑被率の計算には関係ないということか。
事務局	緑の比率のところも含めて確認する。
会長	衛星データだとちょっと小さ過ぎて入ってこない。外れているかもしれない。また、情報が分かれば共有のため、メールで流してほしい。
事務局	承知した。
会長	それでは令和7年度第4回宝塚市環境審議会を閉会とする。
	閉会